

1 学校教育目標

『豊かな人間性 確かな技術を身に付け 京都から社会の発展と人類の幸福に貢献できる人材を育成する』

※【育てる生徒像】教育目標実現に向けて 以下の資質・能力の育成を目指す

- ① 自己実現を目指し他者を理解する豊かな人間性を持つ生徒
- ② グローバルな視野を持ち リーダーシップを発揮して社会に**貢献**し 活躍できる生徒
- ③ 英知を**結集**し 社会を支え未来を切り拓く 次世代の科学技術を担う生徒
- ④ 高い倫理観と責任感を持ち 社会・地域の一員として他者と**連携**し協働することができる生徒
- ⑤ 専門的・先端的な知識と技術を身に付け 生涯にわたって**継続**して学習意欲を持つ生徒

2 スクールメッセージ

常にプラス思考で ～今できることに先んじて挑戦してみよう！～

3 重点目標

産業構造や社会に求められる担い手の変化の中で、京都を支えるモノづくり人材の育成を担う工学系専門高校として、また、理数系人材の輩出を目指すスーパーサイエンスハイスクール指定校として、本校の果たすべき役割がより一層重要になっており、これからの教育内容や学科の在り方といった将来構想に向けたカリキュラム編成など、固定観念に捉われない学校全体としての最適化をめざす。

スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づくこれまでの実践の成果と課題を整理し、次代10年を見据えた専門教育の方向性を考える一年とする。教育活動全体を通して、好きを育み、得意を伸ばすことで自らの人生を舵取りする自立した学習者を育む。

① 教育者としての職責の自覚と不断の自己研鑽、働き方改革の推進

- ア. 実社会と関連した課題を教科横断的に取り扱うなど、生徒が社会の一員としての自覚を高め主体的に学びに向かう力を育むために、生徒の学習改善や教員の指導改善につながっているかの視点で授業改善と学習評価の充実を図る。
- イ. 多様な価値を認め協働する未来社会の創り手の育成に向け、使命感を持って一丸で取り組む。
- ウ. ICTの有効活用による校務の効率化、部活動ガイドラインに基づく適切な休養日や練習時間の設定など、学校における働き方改革を推進し、より一層の教育の質の向上に努める。
- エ. 持続可能な開発目標（SDGs）の理念を理解し、地域社会と連携した取組を推進する。

② 「豊かな人間性」の涵養

- ア. 美しい清らかな心と高い志を持ち、科学技術で社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- イ. 挨拶や清掃の励行、交通マナーの向上に努めるなど社会規範を遵守させるとともに、基本的な生活習慣を確立させ、生徒の主体性と社会性の育成を目指す。
- ウ. 多様な他者と共に生き、学び合い、広い視野と豊かな感性を働かせる人材を育成する。
- エ. お互いの価値観を認め合う等、全教育活動を通して道徳教育をより一層推進する。

③ 「主体的・対話的で深い学びにつながる学習意欲」の育成

- ア. タブレットPCやキャリアパスポートの有効活用等により、個に応じた指導を行い、学びの成果を実感し将来展望を明確にすることで学習意欲を向上させ、キャリア発達を適切に支援する。
- イ. 主体的・対話的で深い学びを实践するプロジェクト型学習（PBL：Project Based Learning）により、粘り強く課題設定・課題解決する力を養い、生徒の自学自習力の促進を図る。
- ウ. 産官学連携した教育活動を通して、学びの有用性を実感し、生徒の学習意欲を高める。
- エ. 加速度的に深化するグローバル社会に柔軟に適応する科学技術者を育成するため、充実した施設を有効に活用し、学科分野の枠組みを超え、協働しながら課題解決能力・実践力を養う。
- オ. 関連性の高いScience（科学）Technology（技術）Engineering（工学）Arts（デザイン思考）Mathematics（数学）の領域を一体的に学ぶことにより、京都工学院STEAM教育を推進する。

④ 「地域に愛される学校づくり」の推進

- ア. 公共心を育成するとともに、地域と連携した体験活動やボランティア活動を実践することにより、豊かな人間性や社会貢献意識を育む。
- イ. 教育活動や部活動等の活動報告や最新情報を積極的にホームページや説明会で発信する。
- ウ. 本校の教育活動について、教職員による自己評価や生徒・保護者による学校評価アンケートを実施し、その結果を関係者や外部に公開するとともに、目標の達成状況や取組状況等について検証を行い、次年度の教育活動にフィードバックする。
- エ. 施設・設備の点検を日常的に実施するとともに、自然災害などに適切に対応できるよう危機管理体制を整備し、生徒の安全・安心な学校生活の保障と地域の信頼に応える学校づくりに努める。